

年 組 名前:

歯科医・三沢さん「人生表現できる奏者に」



ケーナを制作する三沢常美さん＝甲府市内



三枝 大悟
杉原みずき

児童に教える活動も

三沢さんは県立中央病院などに勤務。テレビで俳優が吹いている姿を見て、2020年3月に退職。現在は同「自分にも演奏できそうだ」と興味を市の歯科救急などに携わっている。ケ 持った。チューブで作り方を紹介し、一人と出合ったのは退職後間もなく。している人ともメールや手紙をやりと

ケーナ手作り演奏楽しむ

甲府市の歯科医師三沢常美さん(71)は定年退職後、南米の民族楽器の縦笛「ケーナ」を手作りし、演奏を楽しんでいる。テレビで見たのをきっかけにインターネットなどで作り方を習得。「人生を表現できる奏者」を思い描いて練習に励む一方、「音楽を面白いと感じるきっかけを提供したい」と、子どもたちにケーナ作りを教える活動にも取り組んでいる。(杉原みずき)

りして、作り方を覚えた。材料は主に竹を使用。材質のほか、穴の位置や大きさ、笛の内径などによって音が異なるという、チューナーで音を合わせながら、穴を広げるなど微調整している。ケーナは吹き口にU字形の切れ込みがあり、口の形は個人によって異なるため、自分で作ることで「一番吹きやすい物ができるといふ」。当初は本を見て自分で吹いていたものの難しく、同様に県内で活動するフォルクローレグループに加入。演奏技術を磨いた。

「ケーナは何とも言えない哀愁がある音で、音楽も自分の信条に合う」と魅力を語る。「音楽にはその人の人生が出る」といい、ケーナも手作りする中で「自分にとつての本物を追求し、人生を表現できる奏者でありたい」と音楽に向き合っている。

昨年度から、市内の小学校でケーナを作り、演奏を教える活動を始めた。小学生のころ、音楽の時間のリコーダーがまったく吹けず、「音楽は楽しいはずのものなのに楽しめず、テストも苦しかった」という経験が活動につながった。「理屈は抜きにして、自分で作った物で音楽を奏でられる驚きを感じてほしい。少しずつケーナを広めていきたい」と話している。

(2025年3月6日付 山梨日日新聞 20面)

問1

甲府市の三沢さんが、定年退職後に手作りをしている「ケーナ」とは、どのような楽器ですか。

.....

問2

三沢さんは、自分で作ることの良さを、どこにあると話していますか。

.....

問3

小学校でケーナ作りや演奏を教える活動で、児童になにを感じてほしいと思っていますか。

.....